

株式会社東京精密 2020年度(2021年3月期) 第2四半期 決算説明会
質疑応答 要約

2020年11月11日 開催

- 本資料は、上記日時に開催された2020年度(2021年3月期) 第2四半期決算説明会(Web開催)の質疑応答の内容を、当社の判断で要約したものです。
- 本資料に記載されている情報は、決算説明会開催日時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、今後の当社の実際の業績が、本資料に記載されている情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
- なお、本資料では、半導体製造装置(または同セグメント)を「SPE」、精密計測機器(同左)を「計測」、スマートフォンを「スマホ」と表記します。

1. 2020年度上期のSPE事業環境を総括してほしい。また、2Q受注高の想定対比上振れの背景を聞きたい。

- まず、2020年1月から4月の受注動向は、5G関連需要を中心に堅調だった。
- しかし5月に米国による一部中国メーカーへの規制が発表され、特に台湾OSAT(その中国関連会社含む)の設備投資見合わせ、出荷プッシュアウトなどを誘発、当社SPEも影響を受けた。
- その後、受注は緩やかな改善が続いたが、9月頃から受注が急増した。これは、一部特需的とも呼べる動きで、具体的には(A) スマホメーカーによる低中級スマホへのTDDI搭載の動きに関連した引き合い、(B) COVID-19の拡大により、一部OSATの稼働率が減少したことで、自ら設備投資を実行した半導体メーカーがあったことなどによる。これらが2Q受注の想定対比上振れにつながった。
- 電子部品、特にSAW/BAWフィルタ向けは、この1年堅調に推移している。
- メモリ半導体向けは、一般には軟調とされているが、検査装置に限ると必ずしも悪くなかった。DRAM/NAND共に、設備投資に意欲的/保守的なメーカーが分かれている。
- 当初出遅れていたメモリ向けマルチチャックプローバは、通算出荷が数十台規模となった。

2. 上期のSPE消耗品の事業環境について聞きたい。

- ダイシングブレードは軟調に推移していたが、8月頃から、当社が得意とするスマホ関連電子部品(特にガラス系)の需要を中心に回復傾向にある。
- 研削装置向けホイールについては、SAW/BAWフィルタ等 電子部品メーカーの稼働

率の上昇、並びに新規製品受注の増加等により堅調に推移しており、生産拡充に迫られている。パワー半導体向けもここにきて改善している。

3. SPE の工場稼働状況について聞きたい。

- 八王子・美山両工場でフル稼働が続いている。一方で、計測が軟調、かつ土浦工場新棟(MI 棟)の完工などを勘案し、土浦工場の一部を SPE の生産に使っている。

4. 他 SPE メーカーは「スマホの高機能化に伴う電子部品小型化による製品需要」に言及、また並行してパワー半導体の成長に期待する声がある。当社はどうか。

- あると考える。当社の SPE 受注高、売上高に占める加工装置の割合が増加傾向にあることが、この証左と考えられる。

5. また、他 SPE メーカーがプラズマダイシングに言及した。当社の動向を聞きたい。

- 当社は、パナソニックが提供するプラズマダイシングのソリューションの一環として一部製品を提供している。従って需要動向に関してコメントする立場に無い。

6. OSAT の二重発注リスクを危惧する声がある。当社の見解を聞きたい。

- 現在は二重発注リスクがあるとは考えていないが、もう少し時間がたてば、はっきり見えてくると考える。

7. 今後の SPE 受注見通しや、その持続性に関する考え方を聞きたい。

- 季節性や 5G 関連の需要を主因に、2020 年度 4Q までは良い状況が続くと考えている。一部のスマホ関連需要の減少は 5G 関連需要で相殺されると考えており、現に足許の受注は上がっている。
- メモリ半導体向けでは、現在は設備投資に強気・弱気のメーカーが混在しているが、2021 年度早々に、総じて設備投資に舵を切ると想定している。
- 中長期的には、5G の拡大を主因に、半導体デバイスの大量生産・大量消費の時代が訪れ、これに伴いメモリ半導体も含め、SPE 需要は増加するものと見込んでいる。当社も様々な新製品の投入計画があり、売上を拡大したい。
- これらは米中貿易摩擦がこれ以上悪化しない事が前提。引き続き状況を注視する。

8. 2Q の OP だが、SPE では増収の割に増益幅が小さく、計測では増収減益となっている。この背景を聞きたい。

- SPE では、半期単位で計画する開発費の計上が 2Q に寄った事が主因。他には 2Q の売上製品ミックスと分析している。
- 計測では、事業環境が悪化する中コスト削減に努め、赤字を回避した結果であり、四半期の利益増減についての定量的な評価を行っていない。

9. 充放電試験システム事業について、事業環境・今後の見通しを聞きたい。

- 当初 5~10 年かかると見積もられていた、EV の拡大基調が世界的に早まる中、LiB(リチウムイオン 2 次電池)の充放電試験システム並びに受託測定ニーズが立ち上がり始めている。当社はシステム、受託両面で事業強化を進めている。
- また関連各社が EV 用モータの試作を進めている。これらは摺動摩擦のコントロール、音・振動の低減が必須であり、引き続き高精度加工部品の計測が必要となる。2, 3 年後には、これらに向けた寸法計測需要が更に増加すると考える。当社は出遅れないように、関連メーカーとの協働を通じて対応する所存である。

10. 計測需要の見通しを聞きたい。

- COVID-19 拡大による全世界のモノづくり需要停滞は、2020 年度 2Q で底を打ったと考えている。
- しかし、当社の主要顧客の多くは、年度ベースで設備投資予算を計画する。よって、回復基調にある引き合いも 2021 年度納入を前提とするものが多く、力強い回復は 2021 年度になるものとみている。ただし、COVID-19 の収束が前提となっている。
- EV が拡大基調にあるが、エンジン向け検査需要の急速な縮小は無い。実際に 2022 年頃までのエンジン生産ライン向け製品の仕事を受けている。2021 年度は、こういった既存ラインでの需要を期待し、並行して EV 関連の流れをつかんでゆく。

11. 今回、2002 年度以来の自己株式取得に至った背景を聞きたい。

- (A) 元々営業 CF の創出実績がある中、工場投資が一段落することで安定的な FCF となる想定がある、(B) COVID-19 中でも事業が安定している、(C) 今後のキャパシティ投資計画があるが、特に SPE では 5G 需要を軸に成長確度が高いと見積もられる、(D) 投資家様からのお声を頂戴していた、などを総合的に勘案し、皆様の期待に応え、株主還元の手段の一つとして実行するとの結論に至った。

12. 中期目標達成年度を 1 年 後倒しにした。計測の現況を考えると、目標策定時点での見通しより SPE の貢献度が増加すると考えているのか?

- 計測は 2021 年度に回復を見込むものの、想定水準に戻るのには難しいと見ている。ただ、SPE はこの差分をカバーする勢いがあり、全社ベースでみると 2021 年度に計画達成の見込みがあると考え、後倒しするとの結論に至った。

以上